呉市 6.8.6 原澤本

中國新聞
本紙夕刊共十二頁
定價 一部金四拾錢 一ケ月前金壱圓参拾錢 三ケ月前金四圓五拾錢 六ケ月前金八圓五拾錢 一ケ月前金五拾錢
廣告料 五號拾五字詰一行金壱圓 四號拾字詰一行金壱圓五拾錢 試號七字詰一行金弐拾錢 特別欄八段抜四段六行ノ場合
発行兼編輯印刷人 藤田雅吉
発行所 中國新聞社 広島市川原石町二番地 電話二〇〇番 大阪支局 大阪市北区中之島二丁目二番地

三省の廃合問題

けふの閣議へは持ち出されまい

政治問題化してゐるので 慎重態度をとる

省の廃合問題に關しては審議會に附議する以前に閣議の席上、豫め若槻首相から諒解をもとめるこゝなつてをり、六日の閣議で行政整備委員たる閣僚、または若槻首相から一應これを說明することになつてゐるが關係閣僚から異論が出るものと傳へられてゐるので首相はじめ政府首腦部では圓滿なる國政遂行を期する見地から慎重な態度をとつて後繰しとする模樣である、したがつて六日の閣議には別段これを持出すまでの運びにいたらぬやうである、なほ省廃合問題に先立つて解決することゝなつてをる恩給法改正に關しても主として軍部關係において相當紛糾してをるのでこれも當日の閣議では討議するまでにいたつてゐないしかしこの方は極力軍部をはじめ文部、拓務各方面の意見を總めた上次回の閣議にはかりたいとの方針で進んでをる

『陸相の眞意』

杉山次官から諒解をもとむ

師團長會議における南陸相の演說中の言辭は不穩當であるとして與黨側の憤激を買ひ、政府部内でも少からず憤慨してをるものがありかつ世間の疑惑を醸したので五日の事務次官會議において杉山次官は『南陸相の眞意は世間に傳はつているやうなではなかつた、ことに與黨、大衆を非難する意向は毫もなかつたのである』と種々釋明して諒解を求むるところがあつた

川崎總務 陸相訪問

南陸相の師團長會議における演說に對し長政黨では憤慨するもの多く、少壯派議員などは、今後の陸軍政策につき寄々意見の交換を求めてをるがこれがため川崎總務は五日午後五時半官邸に南陸相を訪問し、その眞意を聽取した上軍部と政府ならびに與黨間の意思の疎通をはかるべく種々無諒するところあつた

交通省の新設 遂に保留となる

結局第二次計畫として進言

民政黨稅整委員會

民政黨は五日午後二時半から本部に財政整理委員會を開き、これを議題として論議したが鐵道、遞信兩省を合併して交通省を設置する根本方針には一致したが

一、遞信省を交通省に移すとしてその財源をいかにすべきか

二、鐵道省の特別會計をいかにすべきか

などの實際問題につき議論百出して容易に決せず、よつてこの際慎重を聽取した上軍部と政府ならびに與黨間の意思の疎通をはかるべく種々無諒するところあつた

政務調査會 交通省問題見合せとなる

民政黨は五日午後四時から政務調査會を開いたが、交通省設置問題については別項財政委員會ではこれが設置の根本方針は決定したがその實行方法については議論百出し決定にいたらず、これを保留したので財政の交通省を持出すことは見合せ單に

一、沖縄縣振興の件は急務であるのでその實行方法を幹部へ一任すること

二、鹿兒島縣大島郡救濟については適當に考慮することを決したのみで散會した

拓務省廢止反對

永井與黨總務 藏相を勸說

永井民政黨總務は五日午後五時半永田町藏相官邸に井上藏相を訪問して行財政整理に關する意見の開陳を行ひ、午後六時十分辭去した氏は行政整理案中の拓務省廢止に關して植民政策の立場から極力反對意見を述べて藏相の諒意を懇請するとともに南陸相の四日の師團長會議における演說問題に關する政治的見地に對しても與黨として憤慨に堪へぬ旨を述べたものである

教職員の恩給法改正

文部省側が聽かず

きのふ折衝協議會

恩給法改正に關する行政整理委員會で決定した恩給法改正要項に關し文部省では過般來檢討をなした結果にもとづいて、左の二點につき反對意見を開陳した

一、現行恩給法によると教職員に就て十五年以上勤續したものには恩給額の百五十分の一を加算することになつてをるが、今回の改正案によると一年につき恩給額の百五十分の一を加算することとなつてをるが、今回の改正案によるとこの點は教職員の待遇上必ずしも惡くはない、加算制を設けた時代にくらべるとむしろ著しく改善されてゐると思はれるから廢止してもよいと考へてゐる

二、一定の豫算内において融通し合うことが出來ぬことはこれを認めるが、退職に際して一般に昇給させることは種々の弊害を伴ふからこれを制限する必要がある

三、昇給させることは種々の弊害を伴ふからこれを制限する必要がある

旨を答へ、つゞいて鷲尾恩給局長と篠原、赤間兩局長との間に種々專門的技術的の質疑應答を重ね

[委員會側] 主査井上藏相以下川崎內閣書記官長、武內法制局長官、河田大藏次官、金森、黑崎兩法制局參事官、鷲尾恩給局長

[文部省側] 中川次官、篠原普通學務局長、赤間專門學務局長、菊池秘書課長、菊澤文書課長出席

今回行政整理委員會で決定した恩給法改正要項に關し文部省では過般來檢討をなした結果にもとづいて、左の二點につき反對意見を開陳した

一、現行恩給法によると教職員に就て十五年以上勤續したものには恩給額の百五十分の一を加算することになつてをるが、今回の改正案によるとこの點は教職員の待遇上必ずしも惡くはない、加算制を設けた時代にくらべるとむしろ著しく改善されてゐると思はれるから廢止してもよいと考へてゐる

二、一定の豫算内において融通し合うことが出來ぬことはこれを認めるが、退職に際して一般に昇給させることは種々の弊害を伴ふからこれを制限する必要がある

三、昇給させることは種々の弊害を伴ふからこれを制限する必要がある

旨を答へ、つゞいて鷲尾恩給局長と篠原、赤間兩局長との間に種々專門的技術的の質疑應答を重ね

事務次官會議

定例事務次官會議は五日午前十一時半から永田町首相官邸で開會、永井外務次官から軍縮會議準備委員會を來る十一日午後一時から開會することに決定、同準備委員會には外務水井、陸軍杉山、海軍小林、大藏河田の各次官その他關係當局者出席するはずである、なほ恩給法改正に關して年額六千圓以上の所得者に對し恩給法を停止するは他に比し不合理であるからとの意見を述べ一同一致、ついで杉山陸軍次官から支那駐屯につき報告あり正午散會

陸軍側では飽まで初志貫徹

軍制改革、師團移駐案など 絶對に讓歩せぬ

軍制改革案ならびに內地師團の朝鮮移駐案に關する政府と軍部との折衝はなほ南陸相と井上藏相との交渉は最近漸く前哨戰で交渉をはつたので近く本論に移り、いよ〳〵兩者の態度が表面化されるわけであるが、陸軍中央部としては當初から

一、軍制改革案の全般にわたる繼續事項

一、師團移駐案における着手年度および完了年度において若干交渉の餘地あるべきもの

一、編制の改正、裝備の充實およびその程度範圍

一、軍事費節減問題

などにおいてはあくまでも初志を貫徹しなければならないといふ強固な決心を有してゐたけれども、實際問題としては果してどこまで頑張り通すか、軍部内においてすら若干の疑義を抱くものがある有樣であつた、しかるにその後突に關する元帥府、軍事參議官方面との折衝の結果、同方面では

この際譲ることは國防の危機を招くものであるからたとへ軍部が內閣を倒壞したとの非難を蒙ることがあつても意に介せず、飽くまで既定方針で遵進すべきである

と主張し、むしろ中央部の軟化をおそれてこれを黙視するが如き態度を示しつゝあり、今回の軍事參議官、師團長會議において、各軍司令官、師團長ともに同樣の意向を披瀝して斷行を慫慂するところがあつたので、最早中央部として萬一に讓歩の意思を有するとしても內部がこれを許さぬといふ立場に立つにいたつた、ことに最近金谷參謀總長から天皇陛下に對し奉り非公式に研究案として過般の三長官會議、軍事參議官會議で決定した軍制改革案ならびに師團移駐案を奏上するため一切の疑惑を釋然とさせて無疑する決心を定め政府との交渉に臨むことゝなつた

軍制改革案 金谷總長から非公式に內奏

今回の臨時師團長會議の開催に先ち金谷參謀總長は天皇陛下に拜謁仰付られ非公式に軍制改革案ならびに師團移駐案について內奏し

黨勢擴張に官吏を利用

山口縣の農村問題講習會 野黨の抗議で狼狽

政治運動を目すべき講習會に官吏を講師として出張せしめることは明かに選擧干渉である、にいたつたので、農林省では非常に狼狽し四日夜東京市麻布區下二番町の松村産業組合長